

旭市議会 スポーツ関係団体

議員が直接話を聞いて市民の本音に迫る「市民インタビュー」。今回はスポーツ関係団体にスポットを当てて、認定NPO法人スポーツアカデミーの代表・大場弘樹さん、同サッカーコーチの伊藤大志さん、スポーツ少年団「海上マリンキッズ」の団長・浅野隆朝さん、同監督の三好勇樹さんにお話を伺いました。

インタビュアー

旭市議会だより編集特別委員会
委員長
林 晴道 議員



認定NPO法人スポーツアカデミー

スポーツに親しむ社会の実現へ

スポーツアカデミーではどんな活動をしているんですか？

大場 幼児から高校生までを対象に、サッカーやバレーボールなどのクラブを運営しており、スポーツに親しむことのできる社会の実現、地域コミュニティづくりの推進を目的としています。またスポーツクラブ以外にも、学習支援や地域交流、子ども食堂や児童養護施設の子どもの無償受け入れなどもやっています。当クラブの特徴としては、若いスタッフを循環させることをコンセプトに、平均年齢が20代のスタッフで運営していることです。

子どもたちのコーチを始めようと思ったきっかけは？

伊藤 自分自身、小学校から中学校までこのサッカークラブに所属していて、高校生くらいの若いコーチに教わりながら楽しくやっていました。今は大学に

通っているんですが、今度は自分がコーチとしての立場にたつて、同じようにサッカーをやりながら盛り上げていきたいという思いで、子ども達にサッカーを教えています。

子ども達と接する中で心掛けていることはありますか？

伊藤 自分が一番明るく元気に接することです。自分が暗いと子ども達のモチベーションの低下にもつながるので、子ども達の中で一番明るく盛り上げて、活動自体を活性化することを意識しています。

この活動をしていて苦労していることはありますか？

伊藤 自分も数年前は同じだったのですが、教えている中学生が反抗期なところ（笑）。ですが、そのことをマイナスに捉えるのではなく、じゃあ言うこと聞いてもらえるためにはどうすればいいの

代表 大場弘樹さん

コーチ 伊藤大志さん



か、それを考え、学ぶことで自分の勉強にもなっています。

大場 行政とのつながりをつくっていくことですね。市にはまだ中々入り込めない部分があるので、今後どうつながっていくかが課題です。

市や市議会に対してどのような印象を持っていますか？

伊藤 正直あまり関心がないのでわかりません(汗)。

大場 行政に頼らずに自分達でやっていくしかないと思っていましたが、今回のインタビューを通じて、自分たちの声が届くんだ、一緒になってやっていけるんだという期待を持ちました。

市や市議会に望むこと、伝えたいことはありますか？

伊藤 もっとこのクラブのことを知ってもらいたいです。今回のインタビューのような交流を今後も続けていけたらいい



バレーボールクラブの練習風景

と思います。

大場 学校に行けない子ども達をここで受け入れて、勉強を教えたり、スポーツなどを一緒にしたいと思っているんです

スポーツ少年団海上マリinkinキッズ

子ども達の教育の手助けになれば

海上マリinkinキッズはどんな活動をしているんですか？

浅野

当チームは海上野球場をホームグラウンドとした、発足から21年目の野球チームです。現在、小学生20名が在籍していて、練習は土日に行い、市内外の大会などにも参加しています。そのほか、市民体育祭や市民駅伝などの市の行事への参加や、海上地域の小学校の草刈りなどの奉仕活動も行っています。

この活動をしていて喜びを感じることは何ですか？

三好 大会などで勝った時はもちろんうれしいんですが、それよりも子ども達がちょっとでも、できなかったことができるようになったのを見ると、やって



あさの たかとみ
団長 浅野隆朝さん

が、どこにそういう話を持っていったらいいのかわからない。そのためにも市や市民に、もっとこのクラブのことを正しく知ってもらいたい。

いてよかったなと思います。

苦労していることや悩みはありますか？

浅野 このコロナ禍で活動自体が制限されていることです。それと、海上野球場に消防署の移転計画があつて、早ければ来年にも練習場所として使えなくなってしまうので、子ども達が活動できる代替地を探さなければならぬことが今抱えている悩みです。

三好 同じく活動場所の問題ですね。市の方からは学校を代替地として提案がありました。今は昔と違ってボールやバットの性能が上がっていて、すごい飛びやすくなっているんで、高学年の子どもだとガラスを割ってしまうとか、そういう不安があります。なので、子ども達



みよし ゆうき
監督 三好勇樹さん

が思いきり野球ができる場所を市と協力して探していきたいです。

今後、海上マリinkinキッズがどうなっているのでしょうか？

浅野 スポーツ少年団の理念にもあるとおり、我々の活動は、野球という最高の手段で子ども達の教育の手助けをさせてもらうということになるので、子ども達が正々堂々と気持ちのいい子になつてもえたら、それに尽きます。そしていつかプロ野球選手を輩出できたらいいですね(笑)

三好 少年野球は勝ち負けではなくて、野球の楽しさを教えるところだと思っているので、楽しくやってもらつて、中学、高校まで野球を続けてくれる子が増えてくれればいいですね。



メンバー勢揃い